

# 屋久島農業普及だより

[編集発行]

屋久島事務所農林普及課農業普及係

屋久島町安房650 TEL:0997-46-2236 FAX:0997-46-3384

## 平成29年度新規就農者励ましの会を開催

8月1日に町営農支援センターで、屋久島地区農業改良普及事業協議会主催による新規就農者励ましの会が開催され、青年農業者育成に尽力いただいている指導農業士、女性農業経営士を始め、認定農業者や関係機関を含め40名程度が出席し、屋久島の農業を支えていく新たな仲間を歓迎しました。

本年度の新規就農者は、堀内直哉さん（宮之浦、野菜+茶など）、後藤天平さん（小島、水稻+果樹など）、松本康希さん（麦生、ガジュツ+果樹）の3名。当日は堀内さんと後藤さんの2名が出席されました。

お二人からは、「地域の先輩達のアドバイスをいただきながら、規模拡大を図り、経営安定につなげていきたい」と今後の農業経営に対する抱負が語られ、先輩農業者からは、「地域農業の貴重な担い手。農業者一体となって支援していくので、分からないことは何でも相談し、夢に向かって頑張ってください」とエールが送られました。

就農された方が早期に経営を確立し、地域農業の担い手として活躍されるよう、農業普及係では、関係機関団体と協力しながら、技術・経営等の支援を行ってまいります。



〈堀内直哉さん：前列右から2番目，後藤天平さん：前列左から2番目〉

（担当：東原）

# ばれいしょの青枯病・疫病の防除対策について

H28年作では、疫病に加えて、青枯病の発生も一部に見られました。ここ数年、天候が不安定なため、病害の発生が多くなっているため防除対策を十分行いましょう。

## 『青枯病』

### 1 特徴・発生しやすい条件

青枯病は細菌によって発生する病気です。**平均気温が20℃以上で多湿になると発生し、降雨後高温が続くと多発**します。菌は、土壌中に3～4年以上生存し、残渣が感染源となります。青枯病は細菌のため、発生してからは防除が困難なので予防対策が重要です。



写真1 青枯病

### 2 防除対策

- (1) 前年発生したほ場は菌が残っている可能性があるため連作はさけます。
- (2) **無理な早植えはしない**。近年、植え付け時期の気温が高い傾向にあり、必要以上の早植えはやめましょう。
- (3) ほ場の排水、風通しを良くする。**農業管理センターの「ハーフソイラー」を活用**。
- (4) 感染した株、いもなどは、早期にほ場から持ち出し処分する。また、収穫後は、すぐに数回耕耘して、残渣を早く分解させる。

## 『疫病』

### 1 特徴・発生しやすい条件

疫病は、糸状菌によって発生する病気です。気温が15℃以上で多湿になると発生し、発病適温は18～20℃です。**感染力が強い**ため、数日で畑一面に広がることもあり、**予防散布が重要**となります。

### 2 防除対策

- (1) 連作や排水対策、残渣処理など、基本的な対策は青枯病と同じです。
- (2) **必ず予防散布を実施する**。防除効果が高いのは、2週間隔で3回農薬を散布する体系です。

表 防除体系例) ※各回で、いずれか1剤を選定する。

1回目(出芽が揃ってから後2週間後)

フォリオゴールド, リドミルゴールドMZ

2回目(1回目の2週間後)

ザンプロDMフロアブル, ホライズンDF

リライアブルフロアブル

3回目(2回目の2週間後)

ジマンダイセン水和剤, ダコニール1000



写真2 疫病の病斑

(担当: 蛭原)



# 土壌診断結果を茶収量・品質向上に役立てましょう！

## 1 はじめに

「茶品質は9割方原料（生葉）で決まる」と言われます。一般的に茶生産工程全体の中で、製茶工程が最も重要と考えられがちですが、例えば70点の原料を製茶工程で100点に引き上げることはできません。製茶工程は、むしろできるだけ点数を落とさない状態で製品化するために試行錯誤していると言えます。

では、原料の品質を100点に近づけるために、今回は地力改善をテーマにします。

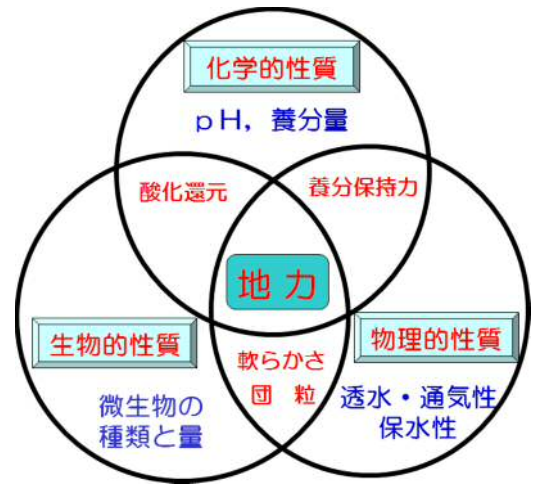


図1 地力を構成する3つの性質

## 2 土壌診断書から地力改善のヒントを得る

「地力」とは、化学的・物理的・生物的性質から構成され（図1）、全ての性質を改善することで、その茶園の地力が最大限発揮されることとなります。

土 壌 診 断 書						
分析機関：屋久島事務所農林普及課			診断機関：屋久島事務所農林普及課			
No.	生産者名	市町村名	地番等	作物名	品種名	
74	A農家	屋久島町		茶	やぶきた	
地目	土壌の種類	土性	採土年月日	分析法	改良する作土深	
茶園	黒ボク土	火山灰	2017年8月1日	公定法	20 cm	
1 土壌診断結果						
分析項目	(単位)	分析値	判 定			適正範囲
			低い	適正	高い	
pH		3.5	-----		4.0 ~ 5.0	
EC	mS/cm	0.01	-----		~ 1.0	
硝酸態窒素	mg/100g	20.0	-----		~ 30.0	
交換性石灰	mg/100g	50.0	-----		105 ~ 175	
交換性苦土	mg/100g	15.0	-----		25 ~ 50	
交換性加里	mg/100g	25.0	-----		24 ~ 47	
交換性ナトリウム	mg/100g		-----		診断しない	
CEC	me/100g	25.0	-----		土壌固有値	
可給態リン酸	mg/100g	200.0	-----		5.0 ~ 50.0	
腐植	%		-----		3 ~	
可給態ケイ酸	mg/100g		-----		15 ~ 30	
遊離酸化鉄	mg/100g		-----		1 ~	

図2 土壌診断書（例）

土壌診断書（図2）は、3つの性質のうち化学的性質についてのみ記載されていますが、読み方によっては、全ての性質を改善する目安になります。注目する項目は「CEC」。CECとは、土壌が養分を保持できる能力を示しており、「土の胃袋」と呼ばれます。胃袋が小さいと、いくら施肥しても雨が降ればすぐに流れてしまいます（図3）。

では、CECを大きくする方法ですが、一般的には有機質資材の投入です。有機質資材としては、完熟堆肥のほかに稲わら等の粗大有機物や緑肥作物等があります。

話は戻りますが、有機物投入は微生物の活動を活発にし、さらに締まった土を軟らかくする効果があります。つまり土壌の3つの性質全てを改善してくれます。

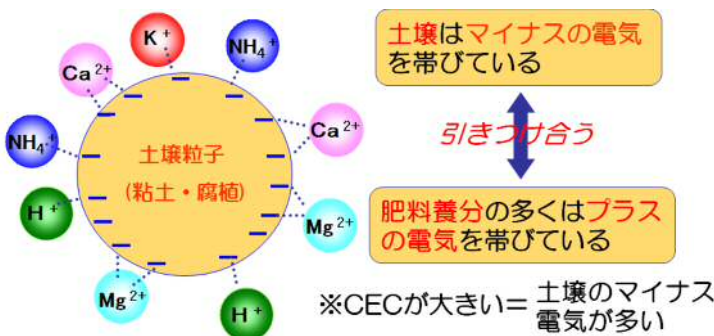


図3 CECの解説

## 3 注意点

茶におけるCECは概ね30を目標にします。一方、鶏糞堆肥など資材によってはpHが高くなりすぎる場合がありますが、定期的に土壌診断を実施し、土壌状況の変化を把握できていれば問題ありません。

# 6次産業化に取り組みたい！

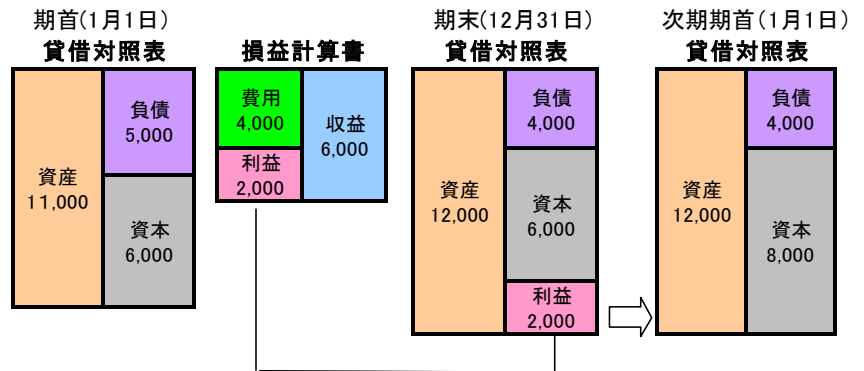
～ 思いをカタチにするために検討することは？ ～

## 【第1段階】

### 貸借対照表と損益計算書をもとに、 特性を生かした6次産業化構想の策定

- 経営実態の把握  
(複式簿記記帳, 安全性・成長性の確認, 法人化, 黒字化など)
- 経営方針の決定
- 具体的構想の樹立  
(施設設備, 資金調達, 労働力確保など)

### ★貸借対照表と損益計算書の関係



## 【第2段階】

### 実践的な商品開発

- 市場動向等の現状把握, 戦略考察  
(市場動向, 消費者ニーズなどの情報収集)
- 加工技術の習得, 試作, 試験販売  
(研修等で課題整理や改善を図る)
- 売価の設定 (製造原価や流通販売経費等留意し設定)
- 必要な申請・許可・届け出等提出 (営業許可, 表示, 補助事業, 農地転用等関係機関への早めの相談)
- 体制整備の検討 (生産量確保, 生産履歴, 衛生管理, お客様のクレーム対応など事前に検討する)



## 【第3段階】

### 販売のノウハウの修得実践

- 自分の商品の見極め  
(流通チャンネルの構築, 「商談会シート」の作成)

6次産業化では、初期投資や雇用の確保などの経費が増大します。概ね5年後を目標に、新商品の開発や販路拡大等を行い、6次産業化関連商品の売り上げ拡大と経営の黒字化を目指しましょう。





# 「屋久島たんかん」かごしまブランド10周年記念生産者大会開催！

「屋久島のたんかん」が平成19年度にかごしまブランド産地に指定され、10周年を迎えることとなったのを記念して、8月24日に屋久島町総合センターにおいて、「屋久島たんかん」かごしまブランド10周年記念生産者大会が、JA果樹部会の生産者や来賓、関係機関など約100名の出席のもと、盛大に開催されました。

かごしまブランドの認定証授与の後、屋久島たんかんブランドの確立に貢献された、川畑孝博さん、平成28年度の樹園地品評会で優良な管理がなされていた、岩川速人さん、鎌田正光さん、川畑孝博さんが表彰されました。



写真1 認定証の授与



写真2 貢献者の表彰

JA種子屋久屋久島果樹部会の鎌田正光部会長が、『「屋久島たんかん」かごしまブランド10年のあゆみと今後の産地育成』と題して、これまでの取り組みについて説明し、今後の産地育成のあり方を語りました。

生産者大会後に、「六次産業化でたんかん産地の活性化を！一ブランド力の強化とマーケットインの発想で一」と題して、鹿児島大学名誉教授の富永茂人様による記念講演がありました。



写真3 部会長による産地育成の取組紹介



写真4 六次産業化についての記念講演

屋久島の果樹が、次の10年に向けてより一層信頼される産地として、さらなる発展を目指すことが確認できた大会になりました。

# 農業用水について

## 『農業用水』

昔から人々は農業生産に必要な農業用水を開発し、その水路は土水路で構築され、水路内の除草、降雨後の堆積土砂排除等の維持管理に多大な労力は関係受益者が担ってきました。

近年ではコンクリート三面張水路や管水路（パイプライン）等で整備されたことに伴い、水路の維持管理は以前よりも改善されてきています。

また、最近では、畑作物へのかんがい用水の利用増加などに伴い、管水路への更新も多くなっています。

屋久島では、水田営農から畑作への転換、畑地や樹園地への農業用水の利用も図られてきたため、多くの農業用水の管水路化が行われてきました。

## 『農業用水の取水』

屋久島での河川からの取水口は、溪流部や既設水路に設けた取水施設から、その下流の管水路へ導水しており、この取水口に流れてくる土砂や木葉をいかに下流側へ流下させて、管水路へ混入しない工夫も必要です。

既存設備では、取水施設にこれらの混入防止対策の様々な工夫を行ってきました。

管水路では、この取水施設に多くの維持管理や工夫が施されています。

## 『維持管理（土砂や木葉等の対策）』

給水栓が土砂や木葉等（ゴミ）による閉塞が発生し、必要な補給水の確保が不可能な場合は、管理者と連携し補修を行います。

また、日頃から取水口や管理設備（静水池・減圧弁・排泥弁等）を管理者などと連携して維持管理を行うことで正常な水利用が可能と成りますので、工夫をお願いしたいと思います。

